

平成25年度 学校自己評価システムシート (県立川島ひばりが丘特別支援学校)

目指す学校像	将来の自立や社会参加に向け、心豊かに、たくましく生きる力を身につけることのできる学校 保護者や地域、関係諸機関から信頼され、誇れる学校
--------	--

重点目標	1 児童生徒一人ひとりの可能性と力を最大限引き出す指導体制づくり。 2 センターの機能の更なる充実と、地域に開かれ地元の学校として親しまれる学校づくり。 3 年間を通して児童生徒が健康で安全に学習できる環境づくり。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	2名
	生徒	名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 7 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○昨年度、高等部類型Ⅰ・Ⅱの教育課程において、授業時間数不足の課題があった。以後、教育課程の適正実施に向け、見直し改善を図った。今年度は教育課程の適正実施及び管理が課題となる。また、教員一人ひとりの専門性の向上と、児童生徒一人一人を大切に「指導体制づくり」「一貫した指導内容の確立」が引き続き課題である。 ○オーダー方式による研究授業により、協議の活発化や効率化が図られ、協議の意見を即、指導に生かすことができた。指導力・授業力の更なる向上のため、限られた時間を有効活用し、教材研究の時間確保や互いに切磋琢磨する環境づくりが大切である。	○新学習指導要領及び教育課程の適正な実施と管理 ○児童生徒の可能性と力を最大限に引き出す授業づくり	①中・高等部の類型Ⅰ・Ⅱの教育課程で学ぶ生徒の授業時数の確保。 ②教育課程の進行管理と改善に向けた取組。 ③類型会議や研修会の実施。 ①効率的かつ効果的な授業研究会の充実と定着。(オーダー方式の継続と参加しやすい環境づくり。) ②児童生徒の実態を、より長いスパンで捉え、指導の充実を図るため、(次年度)2学期制導入の可否について。	①中高等部の類型Ⅰ・Ⅱの教育課程で学ぶ生徒の標準授業時間数の確保ができたか。 ②適性実施に向けた授業時間の確認と学校行事实施期日の見直しがなされたか。 ③類型会議及び研修会等を通じての学部間の共通理解の推進が図れたか。 ①年次研修等における研究授業の計画的な実施と外部指導者による授業研究会を2回、講演会を1回実施できたか。 ②2学期制の導入について、提案(10月)を目標に計画的な検討の進行がなされたか。	①②月ごとの授業時数を集計し、教科間の授業数の差を修正し、標準授業数の確保に努めた。 ③類型会議で校外学習(Ⅲ類)や指導項目名(Ⅳ類)等について、学部間の共通理解が図れた。 ①外部指導者による授業研究会では、オーダー方式の活用で充実した研修が行われた。また、休憩時間のビデオ上映やグループで話し合いが出来たことも良かった。 ②委員会が丁寧に職員の見解を吸い上げながら検討を進めた。	A	○類型の捉え方について、学部間で共通理解が図れるよう検討を行う必要がある。(特に小・中の類型Ⅳ) ○訪問部の児童生徒増に伴い、各学部での教育課程を検討する機会を設ける。 ○オーダー方式については、年次研修や研究授業の内容により選択すべきだと考える。初任者研修では、オーダー方式中心よりも授業作り等について重点を当てるのも一つの方法である。
2	○指導の充実を図ると共に、機会を捉えて、学習活動の様子や児童生徒の作品等を地域へ発信し、教育活動についての理解や支援の向上を図る。 ○校内支援・校外支援の更なる向上を目指し、今年度より、総合支援部と、支援・連携部を立ち上げた。これらの新しい組織のもと、センター的機能や支援学習の充実を図っていくことが重要である。	○PTAと協力した、積極的な本校のPR ○センター的機能の充実と、支援学習の改善	①校外向けホームページの活用と周知。 ②各市町の商工会議所・美術館等との連携。 ①総合支援部の役割の明確化。 ②支援学習をさらに円滑に実施していくためのシステムのづくり。 ③社会福祉協議会との情報交換会の実施。	①発信項目の増加と月1回以上の更新がなされたか。 ②各市町の商工会議所主催のイベントに児童生徒の作品等を展示することができたか。 ①総合支援部のリーフレットを作成することができたか。 ②支援学習のリーフレットを作成することができたか。 ③情報交換会を活かした、ボランティアの活用が図れたか。	①11月よりHPにて給食の写真を掲載した。 ②ゆるキャラさみっとなどのイベントに作業班の製品を出品した。また、地域の文化祭へ作品を展示することができた。 ①外部支援についての説明をHPに掲載した。 ②訪問部で初めて支援学習を計画した。(実施はできなかった。)	B	○本校のPRの方法や機会、目的等を丁寧に検討する必要がある。 ○支援学習で担任が同行した際、校内の指導体制の確保が困難である。引率や応援体制の見直しが必要である。また、支援学習や本校児童生徒への理解が少ない相手校に対する働きかけを検討する必要がある。
3	○医療的ケアの体制については、看護教員を2名から3名に増員した。全児童生徒が健康で安全に学校生活を送るためにも、学校・保護者・医療機関・福祉行政が連携・協力することが重要である。 ○緊急地震速報を利用した避難訓練実施に向けての研修会を実施した。平常時・災害時の安全・安心を確実にするためにも、安全管理・危機管理の整備が必要。	○児童生徒が健康で安全に学習できる指導体制の充実と環境の整備 ○安全・危機管理体制の整備と充実	①医療的ケア体制の充実。 ②児童生徒の健康面・安全面全般についての充実を図る。 ①防災体制の充実。 ②災害等発生時の初動態勢の整備。 ③児童生徒の実態に合った危機対応訓練等の実施。	①情報交換会の充実、担当教員の育成増が図れたか。 ②日々の健康観察・出席状況の確認と校内事故・負傷件数の減少が図れたか。 ①緊急地震速報を利用した避難訓練が実施できたか。 ②一斉メールシステムの構築ができたか。 ③AED研修会、緊急時対応訓練等が計画的に開催できたか。	①情報交換会には自立活動専任も参加し、情報や意見の交換ができて有意義だった。 ①6月緊急地震速報を利用した避難訓練を実施。 ②教員間のメールシステムが完成した。 ③AED研修会は、計画的に開催できた。グループの緊急時対応に関しては、十分でない面もあった。	B	○年度初めに起こる事故も多く、引継ぎをより細やかにしていれば防ぐことのできる事故も多い。引継ぎや活動の様子などを学部の枠を超え確認できる機会を設定する。 ○担当教員育成の早期化・短期化・効率化が必要である。

学校関係者評価	実施日 平成26年2月21日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
*ポイントを絞り、映像として保存し、良い授業を共有化することは、教員の資質向上につながる。	
*町民は、ひばりが丘についてまだまだ知らない・分からない面がある。町民(子供も大人も)が来校できる学校となるためにも、町教育委員会との連携が必要。 また、教員の能力を活かす、公開講座や地域での研修会活動などをアピールしてもらいたい。 *支援学習の課題は理解できる。しかし、取り組んだ成果は大きい。大変な面もあると思うが、進めていただきたい。	
*本校でも保護者へのメール配信に取り組んでいる。素早い連絡は必需品である。	